

学 校 評 価

(1) 令和5年度の学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>育てたい生徒像として、「自らの将来を探究的に創造する人物)」を掲げる。</p> <p>(1) 教職員の多忙化解消に向けた取組を行い、教職員が余裕をもって生徒に対することができる環境づくりをする。</p> <p>(2) S S H事業における三つのプラン（トップサイエンティスト育成、アントレプレナーシップ育成、グローバルリーダー育成）による本校の強みを踏まえた知の創造を全校的に考えていく。</p> <p>(3) 65分授業による「主体的・対話的で深い学び」を進化させ、「カリキュラムマネジメント」を意識した具体的な授業実践を行う。</p> <p>(4) 高い志と高い進路目標を掲げて挑戦する気概と骨太の生徒を育む。</p> <p>(5) 行事や部活動、普段の生活における、自主自律の健全な精神の伸張。美しい半田高校を保ち、様々な悩みを抱える生徒にきめ細かく、積極的に対応する。</p> <p>(6) ICT機器等の活用を創意工夫し、効率的な授業を実践する。</p> <p>(7) 小中学校や地域に生徒の活躍や本校の魅力を広報し、より志の高い入学者の確保に努める。</p> <p>(8) 生徒一人ひとりの個性をより重視した教育を目指す。</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
<p>サービス (教頭)</p>	<p>①在校時間等の状況記録の集計結果等を安全衛生委員会等で確認し、1か月間の時間外労働時間が45時間を超えないよう教職員の健康障害防止に努める。</p> <p>②教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努める。</p>	<p>・会議、委員会を増やすことなく効率的に行う。</p> <p>・部活動ガイドラインの遵守に努め、教員自身の休養日を確保するように促す。</p> <p>・定時退校日を毎考査ごと長期休業中とする。</p>	<p>・できる限り会議、委員会の一部を週時程内で実施することと、1時間以内で会議が終われるように意識を各分掌主任等と共有する。</p> <p>・土日の部活動の活動状況の把握に努める。</p> <p>・休養室の設置を推進し、設置できた時には積極的な活用を促す。</p> <p>・職員が年休を5日以上取得するように努める。また、時差出勤やラーケーションなどワークライフバランスの充実にも努める。</p>
<p>学習指導 (教務部)</p>	<p>①33単位65分授業における「主体的・対話的で深い学び」の追求</p> <p>②新校務支援システムの運用方法の周知と効率化</p>	<p>・身に付けさせたい力を意識した観点別評価を軌道に乗せ、指導と評価の一体化を目指す。</p> <p>・公開授業週間の実施方法や対象などを授業改善につながるように再検討し、充実を目指す。</p> <p>・授業の工夫や評価方法などの情報共有</p>	<p>・生徒の状況に合わせた指導を行えるよう、観点別の評価をしながら、継続的な状況把握に取り組む。</p> <p>・授業アンケートと分析結果の利用方法の改善を検討する。</p> <p>・情報共有をしっかりと行う。</p> <p>・システムの利点を生かせるよう、連携できる点はできる限り活用する。</p>
<p>防災・式典 (総務部)</p>	<p>①防災・防犯体制の整備</p> <p>②諸式典の検討</p>	<p>・防災講話、防災避難訓練を実施する。自主的な避難訓練を実施する。</p> <p>・諸式典を、威厳を保ちつつ簡略化する。</p>	<p>・災害時に「命を守る行動」がとれるような指導を心がける。</p> <p>・避難経路図を各教室に掲示し、自主的な行動を考えさせる。</p> <p>・防災時の行動マニュアルを職員・生徒ともに周知させる。</p> <p>・アンケート結果を参考に、時間、内容を検討する。全体が集まらない場合のために、ズームでの実施方法を引き続き検討していく。</p>
<p>生徒指導 (生徒指導部)</p>	<p>①基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成</p> <p>②部活動の活性化と学業との両立</p> <p>③交通事故防止</p> <p>④ひいらぎ特別支援学校との交流活動の推進</p> <p>⑤いじめの未然防止に係る取組の充実</p> <p>⑥いじめの早期発見、適切な事案対処</p>	<p>・規則正しい生活習慣を確立させる。</p> <p>・携帯電話等の使用ルールを厳守させ、利用モラルを向上させる。</p> <p>・練習時間の確保と効率的な練習を追究させ、学業との両立を図る。</p> <p>・自転車通学者の交通事故防止に努める。</p> <p>・交流活動のさらなる充実を図る。</p> <p>・全校集会や学年集会、ホームルーム活動において、友情や基本的人権に対する理解を深め、生徒がいじめ問題を主体的に考える機会を設ける。</p> <p>・「いじめ・不登校対策委員会」の役割を具体化し、教職員間で共有するとともに、生徒や保護者にも周知する。</p>	<p>・効果的なタイミングで出欠統計を還元し活用してもらおう。欠席・遅刻過多生徒への個別指導を実施する。</p> <p>・校内での携帯電話等のルール厳守を徹底する。利用モラルの指導を工夫する。</p> <p>・挨拶を励行するとともに、活気のある効率的な活動を目指し、遅い生徒を育てる。</p> <p>・登校指導、下校指導、講話、掲示物等を通じて、交通事故防止の啓発に努める。</p> <p>・両校の実態に即して、交流活動をより充実したものにする。</p> <p>・生徒がいじめ問題について主体的に考え、自らに関わる問題として捉えられるようにする。</p> <p>・「いじめ・不登校対策委員会」の役割を生徒や保護者に周知することで、生徒が安心して学校生活を送ることができるような環境づくりを行う。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートの実施方法や、その後の対処の在り方について検証し、いじめの早期発見、適切な対応につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が記入しやすいアンケートの様式や実施方法、その後の組織的な対応の在り方について検討する。
進路指導 (進路指導部)	<ul style="list-style-type: none"> ①挑戦の志の育成 ②進路データの活用 ③低学年層の指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き最難関を目指す指導の継続。 ・進路指導に関わるデータの活用促進。 ・進路実現の土台を作り、目線を高く上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京大や京都大などの最難関層を目指す生徒をバックアップできるようにする。 ・様々な進路データを活用した進路指導ができるようにする。 ・進路LTや進路講演会を活用し、進路だよりの情報発信を行う。
保健・安全・環境教育 (保健部)	<ul style="list-style-type: none"> ①心身の健康の増進 ②危険を予測し安全に行動できる能力を身につける。 ③環境美化に努め学習環境の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察に努める。 ・感染症予防。 ・AED講習会・校内安全点検・危機管理に対する取組を実施する。 ・ゴミの分別と減量化を推進する。 ・花壇の整備など環境の美化活動の活性化をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安・不調を抱える生徒への早期対応。 ・健康状態を各自で把握できるように指導する。 ・講習会や安全点検などを実施し、状況の把握と早期対応を図る。 ・ゴミの分別と持ち帰りの意識を高めるためにポスターなどを作成する。 ・校内の花壇についても充実させる。
読書指導 (図書情報部)	<ul style="list-style-type: none"> ①来館者、貸出冊数の増加 ②図書委員会の活発化 ③図書館の環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい利用方法を指導する。 ・良質な読書環境をつくる。 ・館内の蔵書点検・整理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時のオリエンテーションで、利用マナーの向上を図り、図書館利用の機会を増やす。 ・生徒の要望を知り話題の図書を早期導入する。 ・生徒図書委員会の活動内容を検討する。
情報化推進 (図書情報部)	<ul style="list-style-type: none"> ①ICT機器の活用 ②セキュリティポリシーの周知、徹底 ③教育活動の発信の活発化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の利用方法について研修を行う。 ・セキュリティポリシーの変更点を確認する。 ・ホームページの更新を迅速に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の要望を反映して、ICT機器の利用環境を整備する。 ・個人情報に関するセキュリティポリシーについて周知を行う。 ・更新の技術的なサポートを行う。
SSH 事業推進 (SSH部)	<ul style="list-style-type: none"> ①SSH事業の充実 ②事業成果の普及 ③探究活動の指導体制づくり ④SSH事業の客観的評価の分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存SSH事業の魅力の向上と新規SSH事業の計画と実施 ・本校が地域の「知の拠点」として教育プラットフォームの役割を確立 ・教員の指導体制整備と外部人材の活用 ・客観的な評価ができる手法の分析、評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSH事業では生徒が主体となり、生徒や卒業生が生徒に魅力を発信する事業として改善し、成果が共有できるものにする。 ・国内外の対面研修を再開し、より多くの生徒が参加する事業を開発する。 ・SSH学校設定科目「GIP」を関係分掌、学年と連携して実施し、適切に評価する。 ・次年度から始まる「TSコース」の実施に向けて、関係分掌、教科、学年と連携して実施に向けた指導計画を立案する。 ・地域の中高生および教員が参加できる研修会や発表会を行う。 ・本校の開発教材を活用可能な形で外部へ広く公開する。 ・地域の産官学との教育コンソーシアム「知多探究ネット」を構築運用する。 ・教員の研究や教員間の研修制度の充実。 ・「知多探究ネット」を利用して、地域の教育人材や卒業生を活用した指導体制を整備する。 ・第三者的な視点から評価できるテストや非認知能力テストを用いて多角的で客観的な分析を行う。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善に向けた取組と多忙化の解消に向けた取組 ・学習指導における授業改善、特にICT環境の活用 ・SSH事業のさらなる事業の充実に向けた取組 	

(2) 令和4年度の学校評価

ア 自己評価結果等

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>育てたい生徒像として、「挑戦する人(risk-takers)」を掲げる。 (1) 教職員の多忙化解消に向けた取組を行い、教職員が余裕をもって生徒に対することができる環境づくりをする。 (2) S S H事業HaRT-Projectにおける三つのプラン（出る杭発見・伸長、起業家魂育み、海外進出促進）による才能の伸ばし方を全校的に考えていく。3期に向け、新たな取組の計画を立てる。 (3) 65分授業による「主体的、対話的で深い学び」を追究する。新課程における新たな評価を用いて、授業改善へと役立てる。 (4) 高い目標を掲げて切磋琢磨する、挑戦の志を育む。 (5) 行事や普段の生活における、自主自律の健全な精神を培う。 (6) さまざまな機会を通じて、中学校や地域に生徒の活躍や本校の歴史を広報し、より志の高い入学生の確保に努める。 (7) 感染症対策を十分にを行い、教育活動を継続できる環境を整える。</p>		
<p>項目(担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>サービス (教頭)</p>	<p>①在校時間等の状況記録の集計結果等を安全衛生委員会等で確認し、1か月間の時間外労働時間が45時間を超えないよう教職員の健康障害防止に努める。 ②教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努める。</p>	<p>・新たな事業が始まるが、会議、委員会を増やすことなく効率的に行う。 ・部活動ガイドラインの遵守に努め、教員自身の休養日を確保するように促す。 ・定時退校日を月に1日と長期休業中とする。</p>	<p>・できる限り会議、委員会の一部を週時程内で実施した。また、各主任が意識して会議の短縮に努めた。(分掌会・教科会・担任会) ・月間予定を提出させ、土日の部活動の活動状況の把握に努めた。 ・職員の年休や家族休暇の取得が増加した。</p>
<p>学習指導 (教務部)</p>	<p>①33単位65分授業における「主体的・対話的で深い学び」の追究 ②新校務支援システムの運用方法の研究と周知</p>	<p>・新学習指導要領における観点別評価を確立し、指導と評価の一体化を目指す。 ・公開授業週間のさらなる充実を目指す。 ・授業の工夫や評価方法などの情報共有 ・将来的に業務の負担軽減につながる運用を検討し、全体で周知する。</p>	<p>・授業改善に向けての取組として公開授業週間を利用して授業の外部公開を試みた。テーマや授業内容など工夫した授業も多くあったが、教員同士の共有という観点で見ると改善の必要がある。 ・観点別評価について、該当学年を中心に各教科で検討を進めることができた。内容の学校全体での共有については十分とは言えない。また、評価の基準についても今年度の結果を踏まえて再検討の必要がある。</p>
<p>防災・式典 (総務部)</p>	<p>①防災・防犯体制の整備 ②諸式典の検討</p>	<p>・zoomによる防災講話、防災避難訓練、帰宅班編制を実施する。自主的な避難訓練を実施する。 ・諸式典を、威厳を保ちつつ簡略化する。</p>	<p>・防災講話を実施し、被災地の復旧について生徒に考えさせることができた。 ・避難経路図を各教室に掲示し、自主的な行動を考えさせる避難訓練を行った。 ・防災時の行動マニュアルを職員・生徒ともに周知させることができた。 ・卒業式を第2学年は式に参加し、第1学年へは教室にズームで配信した。厳かな式にするための工夫を次年度も考えていく。</p>
<p>生徒指導 (生徒指導部)</p>	<p>①基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成 ②部活動の活性化と学業との両立 ③交通事故防止 ④いじめ特別支援学校との交流活動の推進 ⑤いじめの未然防止に係る取組の充実 ⑥いじめの早期発見、適切な事案対処</p>	<p>・規則正しい生活習慣を確立させる。 ・携帯電話等の利用ルールを厳守させ、利用モラルを向上させる。 ・練習時間の確保と効率的な練習を追究させ、学業との両立を図る。 ・自転車通学者の交通事故防止に努める。 ・交流活動のさらなる充実を図る。 ・全校集会や学年集会、ホームルーム活動において、友情や基本的人権に対する理解を深め、生徒がいじめ問題を主体的に考える機会を設ける。 ・「いじめ・不登校対策委員会」の役割を具体化し、教職員間で共有するとともに、生徒や保護者</p>	<p>・効果的なタイミングで出欠統計を還元し活用していただいた。欠席・遅刻過多生徒への個別指導を実施した。 ・校内での携帯電話等のルール厳守の徹底に努めたが、少なからず指導を受けた生徒がいた。 ・コロナ禍の中、限られた条件の中で生徒は効率的な練習を行うことができた。 ・登校指導、下校指導、講話、掲示物等を通じて、交通事故防止の啓発に努めた。 ・昨年度同様は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から「ふれあいタイム」をzoomで実施した。 ・生徒がいじめ問題について主体的に考え、自らに関わる問題として捉えられるようになった。 ・「いじめ・不登校対策委員会」の役割を生徒や保護者に周知することができた。また、生徒が安心して学校生活を送ることができるような環境づくりができた。</p>

		<p>にも周知する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートの実施方法や、その後の対処の在り方について検証し、いじめの早期発見、適切な対応につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを生徒が記入しやすい様式で実施した。また、記述内容に考慮した形で回収を行った。今年度はアンケートの結果いじめを訴える生徒はいなかった。 ・対応の難しい事案に対し、学年、保健部と連携し効果的な対応ができた。
進路指導 (進路指導部)	<p>①挑戦の志の育成</p> <p>②進路データの活用</p> <p>③補習の充実</p> <p>④情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き最難関を目指す生徒を増加させる。 ・進路指導に関わるデータの活用促進。 ・志望大学を意識した講座の開講。 ・進路だよりを活用して情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、補習の充実に加え、難関大模試などの幹旋するなど行った。 ・実力テスト結果や進路希望調査データをまとめて活用した。 ・前後期の二期制で実施した。講座のレベル、目標を明確にし募集を行った。 ・進路の日を設定し、それに合わせて情報発信を行った。
保健・安全・環境教育 (保健部)	<p>①心身の健康の増進</p> <p>②危険を予測し安全に行動できる能力を身につける。</p> <p>③環境美化に努め学習環境の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察に努める。 ・感染症予防指導の徹底。 ・AED講習会・校内安全点検・危機管理に対する取組を実施する。 ・ゴミの分別と減量化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の健康観察表を活用し、早期発見に努めることができた。今後の状況に合わせて形式を変えていければよい。オンライン化も視野に入れる。 ・保健環境委員会から、黙食の調査結果や熱中症予防について啓発活動を行った。 ・職員間での情報共有について呼びかけ、一人で抱えない体制づくり。 ・相談室の整備や清掃ロッカーの整備など使用しやすい環境づくりを進める。
読書指導 (図書情報部)	<p>①来館者、貸出冊数の増加</p> <p>②図書委員会の活発化</p> <p>③図書館の環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい利用方法を指導する。 ・良質な読書環境をつくる。 ・館内の蔵書点検・整理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時のオリエンテーションで、利用マナーの向上を図るとともに図書館利用の機会を増やす。 ・生徒図書委員会の活動を活発化する。 ・生徒の要望を知り話題の図書を早期導入する。
情報化推進 (図書情報部)	<p>①ICT機器の活用</p> <p>②セキュリティポリシーの周知、徹底</p> <p>③教育活動の発信の活発化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の利用方法について研修を行う。 ・セキュリティポリシーの変更点を確認する。 ・ホームページの更新を迅速に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の利用環境を整備する。 ・新校務支援システムの円滑な運用を行う ・個人情報に関するセキュリティポリシーについて周知を行う。 ・ホームページの迅速な更新と内容の検討を行う。
SSH 事業推進 (SSH部)	<p>①地域の「知の拠点」として教育プラットフォームの役割</p> <p>②SSH事業の充実と広報の工夫</p> <p>③探究活動の指導体制づくり</p> <p>④SSH事業の客観的評価の分析</p> <p>⑤SSH次期申請</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中高校生および教員が参加できる研修会や発表会の実施 ・開発教材の公開 ・成果発表会の実施方法の検討と内容充実 ・参加型事業の参加条件や研修内容の検討 ・教員の指導体制の整備と外部人材の活用 ・客観的評価方法の改善と、生徒の変容を捉えるための分析 ・全校体制でのSSH第Ⅲ期の申請 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒探究発表会では、オンラインを活用して県内外の高校生の参加を募り、教員向け研修を行うことができた。今後は特に地域の中高生の参加を促したい。 ・オンラインを活用した国際交流事業を開発し、多くの生徒参加を得られた。次年度より対面の海外研修を目指す。 ・中学生サイエンスセミナーは定員上限に近い地域中学生が参加し、科学の芽を育てることができた。講師役生徒の貢献する態度や科学リテラシーが醸成された。 ・大学等の研究機関の教育人材を活用することができた。今後は産官学の教育コンソーシアム「知多探究ネット」の構築を目指す。 ・GPS (Global Proficiency Skills program:Benesse) 等の客観的評価から生徒の変容を分析した。SSH事業の効果との相関について検証する。 ・全校で情報共有しながらSSH第Ⅲ期を申請し、無事に採択された。今後は引き続き全校体制でのSSH事業の推進を目指す。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善に向けた取組と多忙化の解消に向けた取組 ・学習指導における授業改善、特にICT環境の活用 ・SSH事業のさらなる事業の充実に向けた取組 	

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した 主な評価項目	学習指導（65分授業における主体的・対話的で深い学びの追究）、生徒指導（遅刻）、広報（ホームページ）、生徒の遅刻状況・対応、SSH（第3期申請に向けた状況）
自己評価結果について	<p>育てたい生徒像として「挑戦する人（risk-takers）」を掲げているが、真逆の思考として、挑戦しない人のリスクが、どんなに危険であるかを生徒一人ひとりが考えることも必要だと思います。現状に甘んじてしまうことが、自分の可能性を縮め、なりたい自分になれないばかりでなく、社会にも貢献できなくなる、このことのリスクを考える生徒が、半田高校の3年間でひとりでも多く出ることを期待しております。</p> <p>概ね最終的には標準以上の評価が多かったが、SSH部の「国内外の参加型事業」についての項目が、低評価であったことが気になった。</p> <p>また、学年からの報告で、「挨拶ができない」「安易な遅刻、欠席が多い」というものがあり、残念に思った。社会適応に繋がるように個人の資質の向上が望まれる。</p>
今後の改善方策について	<p>優秀な先生を集めることが大事です。勉強を教えるスキルばかりでなく、生徒の心も鍛えるスキルを持った先生を育成してほしい。</p> <p>これからの時代に必要な人物は、自分の意思や要求を表明した上で、それを受け入れて信頼してもらえぬ能力を磨き、社会の中で貢献する高い意識を持つ生徒を育てなければならない。</p>
その他 (学校関係者評価委員から 出された主な意見、要望)	<p>中高一貫校は、これまでの3年という短い期間でなく、6年間という長い教育期間であり、その利点を生かして、一人一人の生徒を、長い目で育てていくという視点を持っていただきたい。その点、SSHは素晴らしい教育手法と思われます。</p>
学校関係者評価委員会の構成 及び評価時期	<p>構成…学校評議委員5名（PTA会長を含む）</p> <p>時期…9月上旬（中間→中止）及び3月下旬（最終→書面）</p>

(3) 経営管理上の問題点等

- ア 教員がさらなる「主体的・対話的で 深い学び」について追究し、教科指導の充実に向けた研修・研鑽を積み、生徒個々の進路目標達成への援助を行う。ICT機器の活用を推進する。
- イ 心身のバランスを崩す生徒のフォローを注意深く行う。
- ウ SSH事業3期目にふさわしい研究開発計画を練る。
- エ 附属中学校創設へ向けて、課題を上げ、一つ一つ解決していく。